

令和5年度  
学生委員会活動報告

# 新入生歓迎会

## イベント概要

4月3日(月) 14:15~15:45に、2104教室にて新入生を対象にした新入生オリエンテーションを対面開催した。本イベントが対面で開催されるのは2019年以来4年ぶりである。

本イベントの目的は、國學院大學での大学生活を知ってもらうことと、そして新しい友達を作る機会の提供である。

参加者の人数は推定500人と経済学部の新入生のほとんどが参加し、大盛況のまま、閉会した。



本イベントを通して、約90%の新入生が本会に満足したと回答している。この結果は、運営側としてはとても嬉しい結果である。ただ、参加者数の規模が想像よりも大きく、大人数の場合の対応が事前想定できておらず、改善の余地はまだある。



## 後記(感想)

今年の開催の大きなポイントは、参加者の集客であったが、本会の開催前に、経済学部のクラスの集いが行われていたのが功を奏した。昨年までのオンライン開催では、直前の宣伝がなく、イベントの開催自体が伝わらないケースもあったが、今年は直前の宣伝の場があり、大幅な参加者増に繋がったと考える。

来年度以降もこのような集客を継続したい。

(経済学科3年 壁本進之介)

# ゼミ個別ブース相談会

## ～イベント概要～

5月10日(水) 12:10-17:00 および5月12日(木) 10:40-14:20 に第1回目、6月6日(火) 11:00-16:30 に第2回目の、経済学部2年生を対象とした「ゼミ個別ブース相談会」を開催した。当日は1,3,5号館を使用し、昨年に引き続き対面開催となった。

本イベントの目的は、ゼミ選びをしている2年生が、ゼミ生やゼミの先生と直接コミュニケーションをとりながら情報を集めることで、本当に自分が入りたいゼミを選ぶきっかけになることである。

5月10日(水)に22のゼミが参加し、5月11日(木)には20のゼミ、6月6日(火)には11のゼミが参加した。参加者の延べ人数は推定250人程度と、多くの2年生が参加してくれた。



本イベントを通して、昨年度と同様告知をしっかりと行い立て看板の設置も積極的に行ったため、たくさんの参加者がいて迷っている様子は見られなかったという声があった。一方で、参加者が少ない時間帯も多くあったため曜日設定の重要性を感じた。

経済学部・演習(ゼミ)個別ブース相談会 概要一覧				
5/11(木) 10:40-14:20				
教員名	教員室(1F)	相談時間	教員名	教員室(1F)
藤井ゼミ		10:40-14:20	志藤下ゼミ	10:40-14:20
藤山ゼミ		10:40-14:20	金子ゼミ	10:40-14:20
芳賀ゼミ	5201	10:40-14:20	藤井ゼミ	12:00-12:40
黒崎ゼミ		10:40-14:20	藤井ゼミ	10:40-14:20
杉山ゼミ		10:40-14:20	天淵ゼミ	10:40-14:20
黒崎(真)ゼミ	5101	10:40-14:20	山本ゼミ	10:40-12:00
宮下ゼミ		10:40-14:20	中野ゼミ	10:40-14:20
藤原ゼミ		10:40-14:20	松本ゼミ	10:40-14:20
中野ゼミ		10:40-14:20		
芳賀ゼミ	5102	11:00-14:20		
藤井ゼミ		11:00-14:20		
中野ゼミ		11:00-14:20		



## ～後記(感想)～

来年に向けて、開催日時の設定について改善が必要だと感じた。

今年は2年生の授業がない日を中心に開催したが、参加者が少ない時間帯があった。わざわざ大学に足を運ぶまで至らなかったのではないかと考えられる。授業の合間に開催することで2年生の負担を減らし、ゼミ生との連絡も強化することで、2年生にとって有意義なゼミ選びができるよう支援していきたい。

(経済学科3年 富岡姫菜)

# 第1回 E-Tour (9月16日開催)

## ～イベント概要～

9月16日(土)13:00～16:00、渋谷キャンパスにて2023年度初回となるE-Tourを開催した。

本イベントの目的は「参加者に國學院大學経済学部の特徴を伝え、入学したいと思ってもらうこと」である。

第1回E-Tourの参加者は高校生45名とその保護者複数名で、参加した高校生の大多数は國學院大學経済学部に興味を持つ高校3年生だった。

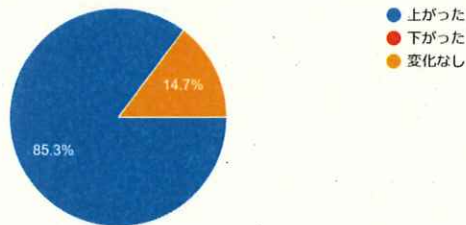
イベント内では学部・学科の紹介の他、本学部の特徴であるアクティブラーニング型授業を体験する機会を設けた。

イベント後の参加者アンケートでは実施コンテンツの全てで非常に高い評価を得ることができた。

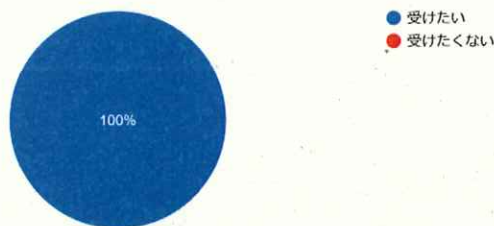


コロナ禍以降、年度初回のE-Tourを対面で実施することは今回が初めてだった。本番までにコンテンツ内容やタイムスケジュールなど多くを見直す必要があったが、スタッフの協力で高いクオリティを保ってイベントを開催できた。

参加前後で國學院大学への志望度はどのように変化しましたか  
34件の回答



アクティブラーニング型の授業をもっと受けてみたいですか  
34件の回答



## 後記

学生委員会に参加して間もない学生も積極的に協力してくれたため、目新しい意見も多く、全員が新鮮な気持ちで準備から本番まで全力で取り組めたことがイベントの成功という結果につながった。

今回得た学びを生かし、さらに良いものを作り上げられるようこれからも努力していきたい。

(経営学科3年 石山一輝)

## 第2回 E-tour (11月11日開催)

### ～イベント概要～

11月11日(土) 13:00～16:00に2023年度2回目のE-tourを対面で実施した。対象は系列3校(國學院高校、國學院大學久我山高校、國學院大學栃木高校)の3年生である。コンテンツ内容は、学部紹介や学科・アクティブラーニング型授業紹介、模擬授業、国大生ツアーなどである。

本イベントの目的は、高校生に「自分なりの大学生像」を作ってもらい、大学入学へのモチベーションを向上させることである。

当日は、57名の高校生が参加してくれた。また、多くの高校生が楽しみながらイベントを行っていた。



学部紹介の様子

定刻通りに円滑にイベントを進行することができた。また、アンケートの結果、非常に高い満足度を得ることができた。

### 国大生ツアーの様子



### ～後記(感想)～

2023年度2回目の開催ということで、前回のE-tourで挙げた改善点を参考によりよいイベントを実現することができた。準備期間での資料作成や当日の発表を、来年、再来年のことを考慮し1,2年生をメインにし、3,4年生を補佐役という形で行ったが、完成度の高いイベントを作り上げることができて良かった。今回の経験を糧に来年はさらに良いE-tourを実施できると考える。

(経済学科3年 井口朝斗)

## 第3回 E-Tour (12月16日開催)

### (イベントの内容)

2023年12月16日(土)15:00~18:00にオンライン形式で開催した。主な対象者は、指定校推薦や総合型選抜での入学が決定している高校3年生、一般受験を考えている高校生であり、63名が参加した。開催目的は、「大学生活を楽しみにしてもらおう機会にする」ことであった。

当イベントでは、先生による学部紹介、学生による学科・アクティブラーニング型授業の紹介で、学部・学科の魅力を発信した後、模擬授業を行った。模擬授業では統計学とペルソナ分析を扱い、グループワークを通じて、両学部の特徴であるアクティブラーニングを用いながら行った。

模擬授業終了後には、大学生の1日に密着する「国大生ツアー」というコンテンツでは、クイズも交えながら学生スタッフが普段の様子を紹介し、高校生が抱く不安や疑問を、大学生との対話を通じて解消してもらった時間も設けた。

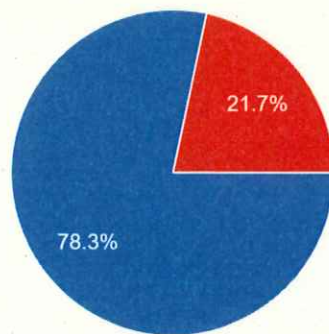


参加した高校生は、慣れないグループワークに最初は緊張している表情も見受けられたが、学生スタッフや同じグループの高校生との会話をしていくうちに、楽しそうに参加してくれている様子であった。

参加後のアンケートの回答結果からも、高校生の満足度の高さがうかがえる。参加した高校生全員が「國學院大學への入学が楽しみになった」と回答している。

### (高校3年生の方) 國學院大學への入学が楽しみになりましたか？

60件の回答



- とても楽しみになった
- 楽しみになった
- どちらともいえない
- 楽しみにはならなかった

### 後記(感想)

第2回 E-tour 開催後からの準備期間が短く、今年唯一のオンライン開催であり、また自分自身リーダーの役割を務めるのは初めてであったこともあり、苦戦したことも多くあった。それでも、運営に協力してくれた学生スタッフのおかげで大きなトラブルもなく、イベントを終えることができた。準備段階でのリスク想定やその対策を考えることやメンバー同士での連携の重要性を再確認した。

(経済学科 3年 伊藤彩乃)

## 経済学部ゼミ成果発表会（12月17日）

2023年12月17日(土)の12:00~16:30に、経済学部ゼミ成果発表会が開催された。1号館の4教室で開催し、11ゼミ・39グループが発表した。各教室、3部構成で、1グループあたり15分の発表と10分の質疑応答が行われ、スムーズに進行していた。

今年から、質疑応答の形式をQRコードを使った形式に変更した。例年はなかなか質問が出なかったところ、今年は多くの学生から質問が出て、活発な質疑が行われていたのが印象的である。

当日は、1号館の入り口部分でポスターセッションを同時開催した。こちらも多くの1年生に見てもらうことができた。

発表の後に若木タワー18Fで行われた、懇親会には50人ほどに参加いただき、各テーブル盛り上がりを見せていた。



各教室、時間帯で人数のばらつきはあったが、1年生も、その他ご来場された方も満足していただいた。質疑応答の形式については、先生方から高く評価していただいた。



### 後記（感想）

初めて運営するイベントということで、まだ慣れない部分や1から企画を考え運営した箇所もあったが全体的にスムーズに準備・運営ができた。来年は今回の反省を踏まえてさらに良い企画立案、運営ができると確信している。

（経営学科3年 杉野嵩悟）

# 経済学部ゼミ成果発表会 広報部活動報告

## 1. はじめに

令和5年12月17日(月)に「経済学部ゼミ成果発表会」が開催された。当書面では、上記イベントにおける学生委員会広報部の活動内容を報告する。

## 2. 担当メンバー

当イベントは下記5名のメンバーで広報を担当した。

経済学科3年 若松大夏  
経営学科4年 家村昌  
経営学科2年 山形駿太  
経済学科2年 本橋直樹  
経営学科2年 鈴木羽奈

### <準備期間>

準備期間におけるスケジュール、業務内容等は次の通りである。

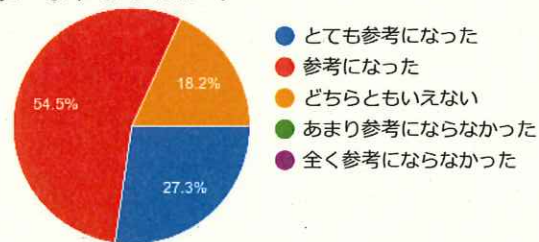
### [日程]

10月18日 運営キックオフ MTG  
10月23日 ゼミ代表への指示書作成  
11月3日 タスク振り分け MTG  
11月20~23日 投稿準備開始  
11月27日~29日 動画投稿準備完了  
11月30日 動画回収完了  
12月5日 動画投稿開始  
12月22日 FA 経由1年生向け  
動画アンケート配布

### <動画に関して>

後日、1年生向けにアンケートを取ったところ次のような回答を得られた。

Q. 動画はゼミ成果発表会に参加するうえで参考になりましたか？



ここから、81.8%が当日の参考になっていることが分かった。

しかし、回答者数が少ないことや、当日のことに対して回答している方が複数いることが改善点として挙げられる。回収できた動画も3ゼミ分と、非常に少ない結果になった。次回以降は、よりこのイベントの意義をゼミ代表等に対しても周知し、積極的な参加を期待したい。  
(回答数：11件)

### <総括>

当日、運営スタッフとして参加させていただいたが、広報として我々のInstagramのアカウントを認知してもらえるような施策を考案できなかったことが悔やまれる。

今回の反省点を活かし、次年度以降改善できるよう尽力したい。

(経済学科3年 若松 大夏)



## 学生委員長のことば

経済学会学生委員会

2023年度委員長 杉野 嵩悟

2023年度は、学生委員会にとって、「成長」の1年になったと考えています。昨年度から対面でのイベント開催が部分的に再開となり、対面開催に慣れていないながらも、様々なことに試行錯誤して取り組んでまいりました。昨年度の活動、成長を得て、本年は学生委員会の団体としてさらに質を上げた活動をするためにいくつかの新しい取り組みに尽力してまいりました。

まず1つ目は、委員会の規模の拡大です。これまで委員会に所属しているメンバーの数は決して少なくはないものの、プロジェクトの企画・運営の質を上げるためにはさらなる新たなメンバーの加入が必要不可欠でした。結果として今年度は、21名を新しくメンバーとして迎え活動してまいりました。メンバーの数が増えたことにより、プロジェクトの準備・運営の質が格段に上がったのではないかと考えています。結果としても、イベント後に参加者に対してとったアンケートでは、非常に多くの方々から、「大変満足できた」という評価を多くいただくことができました。また、広報部を通して多くの方々に学生委員会の存在を知ってもらうべく、SNSの運用も本格的に開始いたしました。今年度でSNSアカウントのフォロワーは大幅に増加し、在校生含め多くの人達に認知してもらえたのではないかと感じております。

そして2つ目は新しいプロジェクトへの参加です。本年度より学生委員会では「ゼミ成果発表会」への準備・運営の活動にも参加させていただきました。昨年度までは先生方が運営などを行っていたイベントではありますが、今年度は我々学生スタッフが中心となって、イベント中の新たな企画などを考えて運営を行いました。来年度も委員会の規模が拡大したこともあり、委員会としてさらなる成長のためにも積極的な新たなプロジェクトへの参加を考えております。

2024年度はさらなる飛躍を目指して、今年度以上の新たな取り組みを行っていきます。学生委員会として活気ある経済学部を作っていくために、今年度まで作り上げてきた土台をベースにさらに新たな取り組み・経験を積み上げて参ります。今後も学生委員会の活動を見守ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、日ごろから学生委員会の活動を支えてくださった経済学部の教員並びに職員の方々、各ゼミ代表を始めとした経済学部学生の皆様、学生委員の皆様へ、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

## 学生委員長のことば

経済学会学生委員会

2023 年度委員長 柳瀬 智文

今年度は「外部への発信と連携の強化」という目標と「イベント集客の強化」と「報・連・相の徹底」という行動指針を掲げ、活動してまいりました。コロナ禍が明け今年度は全てのイベントの対面開催再開を果たすことができたことで、この目標が重要な役割を果たしていた1年になったと感じています。

1つ目の「外部への発信の強化」という目標に対し掲げた「イベントの集客の強化」という行動指針ですが、主に Instagram の運用に力を入れました。学生委員会では近年、満足度は高いものの集客面がどのイベントでも課題としてあげられていました。昨年度、広報戦略統括という新しい組織体制を構築し一部イベントで参加者を増やすことができました。今年度も引き続き様々な人にイベントについて知り、参加してもらうため、広報部が運用している Instagram に着目し、投稿内容の見直しやストーリーやリール機能を積極的に活用しました。その結果、Instagram のフォロワー数を約2倍の479人にまで増やすことができ、新入生歓迎会や E-Tour といったイベントで昨年よりも多くの方に参加していただけました。

2つ目の「連携の強化」という目標に対し掲げた「報・連・相の徹底」という行動指針に対しては、委員会内に新たに関係構築係を作ることにより、学年関係なくなんでも言える関係性作りを大切にしました。各学年から関係構築係を募集し会議前後のアイスブレイクや委員会外での交流企画を立ててもらうことで、委員会メンバー同士が交流する機会を増やしました。今年度は委員会の規模を拡大し短期間で大幅にメンバーを増員したため、関係構築係は縦のつながり・横のつながりを持つためにも重要な役割となりました。また、交流する機会が増えたことによりプロジェクトの際もコミュニケーションが取りやすくなり、より円滑な運営を行うことができるようになったと感じています。

今年度は対面開催に戻ったイベントが多く試行錯誤しながら運営を行った1年となりました。2024 年度も引き続き今年度の課題を解決しながら新しい試みを行っていきます。委員会内部の協力体制と外部の皆様方との関係性を大切にしながら活気ある経済学部にするために活動していきます。

最後になりますが、日頃から学生委員会の活動を支えてくださった経済学部の教員ならびに職員の方々、各ゼミ代表をはじめとした経済学部生の皆さま、学生委員の皆さまへ、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。そしてこれからも学生委員会の活動を見守ってくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

# 令和5年度の学生委員会の活動を振り返って

令和5年度学生委員会担当教員

中田 有祐、芳賀 英明

本年度、学生委員会は、経済学部や経済学会に協力する形で以下のイベントの実施および実施補助をしました。その他、SNS（X（旧・Twitter）、Instagram）にて経済学部に関する情報の発信も随時行っています。

・学部学生を対象としたイベント

- (1) 新入生歓迎会（4月）
- (2) ゼミ個別ブース相談会（5月、6月）
- (3) 経済学部ゼミ成果発表会（12月）

・高校生を対象としたイベント

- (4) 経済学部リアル体験ツアー（E-Tour）（9月、11月、12月）

※（3）経済学部ゼミ成果発表会は、当日の受付・司会補助等の実施補助を担当。

※イベントの詳細は、本誌内の各ページをご参照ください。

令和5年度も前年に続き委員長2名体制で、学生委員会に所属する30名の学生が主体的に各イベントの実施に向けて取り組みました。以下に、令和5年度の総括と次年度に向けた課題を示します。

コロナ禍ではオンラインイベントが中心だったところ、昨年度には対面イベントが増加し、本年度はほぼすべてのイベントが対面開催となりました。なかには令和元年以来の対面実施となるイベントもあり、オンライン実施の経験しかない中で、所属学生も試行錯誤しながらの取り組みとなりました。

組織の年度目標としては、外部への発信と連携の強化を掲げ、そのためにイベント集客の強化、報・連・相の徹底という行動指針のもと活動しました。特に、前年度に課題として挙げられていた広報の強化に取り組むべく、組織内の広報の体制を刷新し改善に努めました。SNSを活用しイベントの積極的なPRを行った結果、参加者数も増え、各イベントは昨年度以上の盛り上がりを見せていました。さらに、昨年度から始めたプロジェクトマネージャー制度（前年にプロジェクトの統括を行なった学生（4年生）が、見守り役に回る仕組み）も軌道に乗り、4年生が後輩にアドバイス・フォローを行う姿も印象的でした。

次年度に向けては、休止中のイベントの復活、新イベントの検討を行う予定です。旧来よりも所属学生数が増え、組織全体の余力が増してきており、これまで手が回らず休止してきたイベントの復活・新規イベントの実施が可能となっています。その際には、前例が参照できずイベントを1から創り上げる必要があるため、十二分に準備・検討期間を取るなど、余裕をもった実施計画を立てることが求められそうです。